

手作りコンサート Violin&Piano 報告

日時：7月26日 土曜日 14:00 から 15:50

場所：公民館 218 音楽室

瀬崎明日香さんと徳重智子さんのデュオ・コンサート

令和4年（2022年）8月27日の夙川公民館での演奏会以来、今回が2回目となるが、ますます素晴らしいコンサートになったと感じた。

響きが部屋全体に広がり、包み込まれる演奏だった。なにより力強く音量の豊かなヴァイオリンの響きにいきなり圧倒された。

瀬崎さんの演奏に包み込まれ、押し倒され、流されてしまった。まるで、もてあそばれている感覚だった。近くでの演奏の迫力に酔い痴れることができた。

アンサンブルも素晴らしく、一体感のある素敵な演奏であった。

また特筆すべきは、徳重一家の総力を挙げた、手作りのコンサートであったこと。

勿論、出演の二人が主役で、プログラムの曲目の選定、順序の決定など注力され、まとまりのある興味深い内容に仕上がっていた。そして、ご家族も、会場選定や予約確保、パンフレットの作成、チケットの販売、など影の力を発揮されて、義理で参加された向きでも、この本当の音楽に触れることができ、間違いなく感動のひと時を持つことができたと思う。

智子さんの人柄がにじみ出たほっこりとした説明に、しゃきっと付け加えるお姉さん肌の瀬崎さんの解説も、勉強になったし、わかりやすい曲解説となり、とても興味深かった。

MCの由紀子さんも歯切れよく、全体を仕切られていたと思う。

今回は140名の制限があって、来たくても来れなかった人も多くあったとのこと。是非とも、次回はもっと大きな会場で開催してほしいものだ。

全体の評価としては、“楽しくて心温まるアットホームな”と表現したいコンサートだった。



東京芸術大学附属音楽高等学校を経て同大学を首席卒業。
パリ国立高等音楽院大学院修了。
これまで田中千香士、原山誠治、堀 正文、R. パスキエ、
J.J. カントロフ、F. アーヨ氏に師事。
第五回宝塚音楽コンクール第1位、第64回日本音楽
コンクール第1位。
し、モーツァルト国際コンクール第3位、ヴィエニヤフス
キ国際コンクール上位入賞。
トリエステ国際室内楽コンクール最高位受賞、フォーバ
ルスカラシップ・ストラディヴァリウスコンクール優勝。
継続的に欧州国内外でソロ、室内楽、オーケストラとの
共演等で活動を展開。
コバケンとその仲間たちオーケストラのコンサートミス
トレスを務め、その活動が小栗謙一監督「天心の旗」に
取り上げられる。
関西でも京都市交響楽団、大阪交響楽団等と共演。
神戸ロッキーマン社の楽器ケースモデルを務める。福岡
アコースティック系楽団メンバー。
秋吉台ミュージックアカデミー講師。日本音楽コンク
ール、毎日学生音楽コンクール審査員など後進の指導に
力を注ぐ。

瀬崎明日香
ヴァイオリン

東京芸術大学作曲科首席卒業、同大学院修士課程終了。
文化庁芸術家派遣研修員として、パリ国立高等音楽院にて研鑽を
積む。
東京室内楽コンクール入選、旧奏楽堂歌曲コンクール入選。
カメラータ東京より、室内楽作品をCD収録。
これまでに大阪音楽大学、相愛大学、洗足学園音楽大学にて講師
を務める。
フランス パリ FAMEヴァイオリンコンクールでピアニストとし
て参加。
NHK教育テレビ「全身音楽体験」にて、指揮者大野和士氏と「火
の鳥」「牧神の午後」を二台のピアノで演奏し、2019年夏サント
リーホールにて「18代のためのプレミアムコンサート」に企画、
連弾出演する。
2021年夏 フランス リヨンから帰国。
現在「21世紀音楽の会」会員、「日本ソルフェージュ協会」会員。

徳重智子
ピアノ

7/26(土) 2025年 **要整理券**
13:30開場 14:00開演
芦屋市民センター 別館 音楽室
問合せ：080-3857-5528

案内のリーフレットやチケットのヴェネツィアの写真に、前はフランスの風、今回はイタリアの風かと思っていたが、やはり今回も風はフランスの風が吹いていた。

プッチーニの時は、イタリアオペラの匂いがしてイタリアの感じが漂ったが、全体的にフランス風でまとまっていたと思う。二人の演奏の姿を見ても、舞台衣装もフランスの風を感じた。やはり勉強した国への思い入れが大きいのであろう。素晴らしいことだ。

演奏された曲は、

① ドボルザーク「母が教えてくれた歌」

ヴァイオリンの名曲である。とにかく響きに圧倒された。ヴァイオリンが鳴るのである。これで観客は一気に引き込まれてしまった。

② プッチーニ 「私のお父さん」

これぞ、イタリアオペラの曲。ソプラノ歌手が歌うアリアである。それをまるで歌うようにヴァイオリンが奏でる。歌うヴァイオリン大谷康子ばりの演奏。ストラディバリ力か。

この2曲で、徳重ママとパパへの感謝とのこと。べた過ぎてこちらが気恥ずかしくなるようだったが、贈られたご両親は、報われた思いがしただろう。立派な娘を持たれた幸せを実感できたことと思う。羨ましい限りだ。

③ イザイ「子供の夢」

ベルギーのヴァイオリニストで作曲家イザイの作品。初めて聞く曲であったが、よかった。

④ ポルディーニ「踊る人形」

ハンガリーのピアニストで作曲家ポルディーニの作品。ヴァイオリニスト・クライスラーの編曲で、とってもおしゃれな仕上がりだった。

⑤ サラサーテ「ツィゴイネルワイゼン」

前振りの説明で、楽器を開けてみてわかる違い、緻密なストラディバリとおざっぱなグアルネリとのこと。そして天皇陛下のヴィオラを製作したのが、クレモナにいた日本人であるということなど、知らない話が満載でとても勉強になった。

これは、多くの人が知っているジプシー音楽の名曲である。

超絶技巧を堪能した。そして、疾走感が抜群であった。観客もノリノリになった。

観客も、全員が感動した。大きな拍手が起きたのも頷ける。

休憩

⑥ ドビュッシー「ピアノのためのプレリュード」(編曲徳重智子)

音と香りは夕暮れの大気に舞う

ピアノ曲をデュオ用にヴァイオリンの楽譜をつけたとのこと。編曲は、作曲するよりは楽に作れるとのこと。智子さんは素晴らしい才能の持ち主だ。ヴァイオリンの良さを引き出している。

⑦ 徳重智子「ダンスカプリス」(新曲)

とても聞きやすい曲であった。調性音楽にしたとのこと。

山をイメージされたらしいが、そこまで映像は浮かんでこなかったが、美しい曲であった。

⑧ ハーン「ソナタ」

作曲者を調べてみると、フランス語読みでレイナルド・アーンだった。ベネズエラ出身のパリで活躍した作曲家らしい。

初めて聞く曲であった。第一楽章はなじみやすかった。第二楽章は 7 拍子の速い曲であったが、演奏はピアノもヴァイオリンも破綻もなく疾走感がただならず、駆け抜けていった感のある素晴らしい演奏であった。

第三楽章は、哀愁漂う音色になり、曲調の変化の激しさに吃驚した。

そして、

⑨ アンコールは、サンサーンス「白鳥」

とっても優雅な白鳥が見えた。

⑩ みんなで合唱「ゆりかごの歌」

最初に戻って、母が教えてくれた歌は、この歌かも知れないとの解説。涙が出る思い。

懐かしい唱歌である。

ここでも主旋律を奏でるヴァイオリンの演奏に合わせて、みんなで合唱した。

わたしは、ゆりかごで寝た覚えはないが、良いうちの人には思い出深いものがあるのだろう。

全員を巻き込んだフィナーレ、心憎い演出。良くできたプログラムであった。

以上